

8月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年8月末現在〕

令和4年9月12日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「売上高」は改善、「景況」、「収益状況」は悪化した。

業種別では、製造業で「売上高」、「収益状況」は悪化し、「景況」は改善した。非製造業は「景況」が悪化し、「売上高」、「収益状況」が改善した。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、3年ぶりに行動制限がないお盆休みとなった事や、プレミアム付き商品券等の影響から、非製造業の売上高が大幅に改善し、全体の数値を押し上げた。しかし、全体では収益状況の改善までには至っていない。

景況DI

製造業は、前月比3.9ポイント改善の▲42.3ポイント、非製造業は、前月比8.3ポイント悪化の▲33.3ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の▲38.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比3.9ポイント悪化の▲7.7ポイント、非製造業は、前月比37.5ポイント改善の12.5ポイント、全体では、前月比16.0ポイント改善の2.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲50.0ポイント、非製造業は、前月比4.1ポイント改善の▲41.7ポイント、全体では、前月比2.0悪化の▲46.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年8月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品製造業	学校給食パン	例年同様ではあるが、8月は学校夏休みのため売上がなく、収益・資金繰り等が悪化に転じている。10月より発効される最低賃金が最大の引上げ額となった。人件費、原材料費などの上昇分を加工賃に反映させることが、当業界では容易ではない中での最低賃金の引上げとなった。学校給食を担う人々が、ますますいなくなるのではないかと憂慮する。
		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県7月の清酒課税移出数量は、前年同月比92.1%であった。本格焼酎については、前年同月比119.2%であった。県内の新型コロナウイルス感染者は急増しており、飲み会もコロナ禍前と比べて全然戻っていない。清酒でみてもコロナ禍前の3年前に比べて86%であり、まだまだ回復には程遠い。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるもののコロナ禍で国内マーケットが不安定の中、輸出に注力し、令和4年6月の前年同月比輸出数量（全国ベース）は、110.0%であった。全国ベースでは好調であるが、茨城は輸出に注力している蔵元が少なく、輸出増強は今後の課題である。 ○県内当業界について コロナ禍第7波の猛威により外食は自粛ムードである。日本酒の主たる消費者である中高年が用心して外食や飲み会を控えていることが大きい。家飲みでの消費拡大も視野に入れて営業していく必要性が有る。地酒の知名度アップと高品質さを消費者に認識してもらう等、Withコロナは企画力の勝負と考える。コロナ禍で依然業況は厳しいが、今年も新米の収穫季となり早い蔵元では酒造りが始まっている。コロナ禍も3年越しになってきたが、来年の新酒発売の頃には治療薬もできて、収束することを祈るばかりである。
		納豆	一般消費者向けの商品を主力としているメーカーの状況は先月同様であるが、一部明暗が分かれてきた感じもある。コロナ禍以来好調なメーカーと徐々にマーケットを縮小しているメーカーの話と二通りであるが、その理由は各社の内部事情によるものであり、今後もその傾向が続くのか現時点では明確ではない。また、土産品向けメーカーは今月お盆や夏休み需要が期待されつつも感染が過去にないほど増加していることが懸念されたが、結局政府の方針として社会活動の公的抑制を行わなかったため、売上高は去年よりは3割強程度増加した。ただし、昨年の緊急事態宣言等で激減したので、コロナ禍前に比べればまだ3割弱減少している。このように公的抑制を回避したことは経済的には効果的であったが、一方で、中々感染が収束しきれない状況を見ると、今後どのようになるのか不安もある。また原材料価格が更に上昇しており、折角の売上増による利益を吸収してしまっており、収益状況はむしろ悪化している。そのような中、業界全体として値上げの機運が高まってきている。そのことが業界の資金繰りや全体的な景況感を悪化させている。製造現場としては操業度も向上している分、雇用も増やそうとする傾向はあるものの、人材難に遭遇しているケースもまま聞える。 一方、もし夏休み需要が堅調であったとしても、操業度向上には雇用人員の増加が必要であり、長期にわたる不況下で雇用を抑制してきた中小企業にとっては人材難に遭遇することが懸念されるが、一方、明確なポストコロナとは言いい切れない状況下で、今後の感染状況によっては再びの生産調整、即ち労働力の調整が必要とされる可能性も否定できず、雇用調整助成金の特例措置の継続に不安のある状況下では、積極的な雇用も躊躇われる状況である。更には業界全体としては原材料の値上げが多岐にわたって続いており、特に土産品向けメーカーは、長期にわたるコロナ不況による内部留保の取り崩しとのダブルパンチで経営全体が圧迫されている。
		菓子	コロナ禍・円安・ロシアのウクライナ侵略等により、人流の悪化・原材料高・経費高の状況である。特に和菓子の主原材料である、生餡は前年同月と比べると価格が20%高くなっている。商品の値上げは必要であるが、お客様は可処分所得が少ない中、どこまで買ってくれるかが問題である。
		漬物	特に変化なし
	繊維工業	袋物	ここに来て仕事量も増え、状況が好転しているように感じる。猶予されていた返済が始まり、資金繰りに苦労する様子も見られる。
	木材・木材製品	製材	・構造材は、先月に引き続き桧・杉ともに価格は全般的に弱含み（価格が安くなろうとしている状態）で推移した。 ・羽柄材は、住宅需要の落ち着きから、全般的に荷動きは低調だった。 ・輸入材は、価格は全般的に弱保合（価格が下がったまま、上昇せずに保っていること）。 ・原木の入荷は順調だった。価格については、杉は横ばいだったが、桧については値が下がっている。
		県北地区プレカット	8月は加工があまりなく、厳しい月となった。加工は目標の60%となり、売上金額も減少している。加工予定は、9月下旬はまだ入っていない。資材関係の価格は、若干値戻し（上がって下がったきた）となっており、木材入荷の状況も改善されている。
		県央地区プレカット	木材の流通は以前のようににはならないが、改善傾向にあるように感じる。しかしながら、見積物件も少なく仕事量は減少気味。9月以降は大型物件が入ってくる予定があるので、多少は期待したい。
	紙・紙加工品	段ボール	昨年よりも若干、売上高・受注量ともに少なかった。特に、お盆明けは一段と悪くなった。組合員の中には、機械が壊れても修理部品が入らない、人手が足りない、人手が給料の良いところに移ってしまって大変であるという声が聞かれる。
	印刷	総合印刷	新型コロナウイルスの感染者の人数は依然として高水準にあるが、行動制限が緩和されて経済活動も徐々に戻りつつある。これにより、受注回復が期待されるものの、今のところ回復基調には至っていない。3年の長きにわたるコロナ禍との闘いで、生活様式、社会全体の動きが変わってきており、以前の受注環境に戻るのか業界の不安は大きい。
	窯業・土石製品	陶磁器	春と秋のイベント開催時期の間の夏場は、人の流れが落ち着いているように感じた。秋口に入ったところで、人流が動き出すように努力していきたい。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年8月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	鉄鋼・金属	鉄鋼	今月は前月と同様、前年同月比10%程度売上高が増加した。しかし、前年の実績が悪かったからであり、コロナ禍前の同月比は10～15%程度の減少である。お盆休み後の受注については、自動車関連部品を除き、様々な業種で加工依頼品が順調に入荷しているため、受注に繋がっている。ただし、長期のお盆休暇のため、普段の月と比べて例年売上の少ない月となっている。原材料の全ての金属及び薬品関係は値上がりしている。燃料及び石油製品は高値の状況である。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上状況は前年同月比で、5社増加で2社減少であり、全体増減率は108%であった。4月以降減少していた主要取引先からの受注は回復傾向にあり、前年同月比で増加に転じた。組合員企業では、正社員数は変わらないが、派遣社員数が増加している。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	売上高は徐々に回復しているが、販売価格、取引条件等は悪化傾向にある。
非製造業	卸売業	水産卸	精算所取扱高は前年同月比2.48%増加した。8月前半は多少荷動きは伸びたものの、お盆休み明け月末にかけては、新型コロナウイルスの感染者の増加等の影響で厳しい状況が続いている。取扱金額は前年同月比では伸びているが、ほぼ全ての商品単価が上昇しているため、取扱数量はかなり減少している。また、これから旬を迎えるサンマをはじめ鮮魚等は、入荷が少ないため、高値で推移している。卸売業者をはじめ、量販店（スーパー）、仲卸業者、一般買受人全ての業者で厳しい状況が続いている。
		米麦卸売業	令和4年産の米の集荷・販売が始まり、米価は前年産よりも1割弱ほど高くなっており、販売環境は厳しい状況が続いている。
		セメント卸	県内の建設工事は、県南地区を中心に活発に推移しているが、それ以外の地区は総じて低調。袋セメントの出荷袋数は、前年同月比81.9%と低調な水準となった。
	小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比117.2%、客数は同117.9%であった。前年同月の売上を確保できた店舗は76.9%となり、良い結果となった。プレミアム付き商品券の効果が表れたようだ。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店（雑貨店1店舗、アミューズメント1店舗）の売上（客数）は前年同月比で104%（98%）となり、前年同月より売上は向上した。主要業種では、食品100%（96%）、飲食105%（105%）、ファッション117%（118%）となった。11日は外部主催の花火大会を近隣会場で、20、21日には当組合主催の夏祭りを3年ぶりに開催し、演歌ショーやお子様向けのビンゴ、カラオケ大会などを実施した。8月10日には空き区画にガチャガチャ専門店がオープンした。
		県南地区共同店舗	新型コロナウイルスの感染拡大の第7波の影響なのか、来店客数減少がカラオケルーム、フィットネス、リラクゼーション等で出てきて、やむを得ず休業する店舗があった。また、予定していたイベントも中止となった。飲食、美容室、理容室、歯科等のサービス業種の状況は良かった。文化品（時計宝飾）の売上については特招会の効果があった。既存店の売上は前年同月比で、全体97.0%、衣料80.2%、文化品114.8%、食料品88.9%、飲食105.1%、サービス100.0%であった。
		家電	売上は前年同月よりも上昇、エアコン・冷蔵庫等の夏物が好調であった。今後の取組として、家庭部門の温室効果ガスの削減に向け、省エネ性能で三つ星以上の商品（エアコン、冷蔵庫350ℓ以上）の提案を推進する。
		燃料小売	原油価格の高止まりや円安の影響で、ガソリン等の販売価格は依然として高いが、政府の燃料油価格激変緩和対策によって、価格は抑えられている。お盆休み期間中は、コロナ禍の移動制限が無く、観光地周辺は昨年よりも給油客は増加したものの、それ以外の地域は昨年とあまり変わらずであった。
		中古自動車	当月は半導体不足や東南アジアのコロナ禍による部品供給の停滞で実績を大きく落とした前年同月に対して、販売台数は前年同月比127.3%、販売価格は同107.9%となり、売上高も同137.4%と大幅に回復した。ただし、流通市場は依然として深刻な玉不足が続いており、流通価格の高騰にも歯止めがかからない状況が続いている。販売価格の上昇は仕入値の高騰が影響しており、小売販売における収益増には繋がっていない。
		食料品	当月は猛暑が続く、売上増加も期待されたが、前年同月比97%と厳しい結果となった。要因としては、水産類、酒類が売上を大幅に落としてしまったが、原因は調査中である。反対に、暑い時期には強い、飲料・アイス類は売上増加に繋がった。新型コロナウイルスの感染者が高止まりであるが、今後も来店客に安心・安全な店であるように感染対策は万全に行っていく。
		野菜・果実	8月は野菜果物合計で前年同月比101.4%の取扱高となった。野菜に関しては、上旬は復活した梅雨前線の影響により各地で大雨となり、キュウリやトマトといった夏野菜の出荷が滞り、単価の上昇を招いた。雨の影響は果物にも及んでおり、全体的に小玉傾向となったが、お盆の需要もあり取扱自体は多く、単価高で推移した。
	商店街	水戸	原材料等の仕入れ値が上がっている。
		筑西	7月19日以降、新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、宴会等の予約キャンセルが発生し、それ以降は来客数が減少している。
	サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の前年同月比は、減少となった。普通車の車検台数が数か月連続して減少している。軽自動車は若干の増加が見られるものの、全体としては、車両入庫台数はほぼ横ばいである。
		ホテル・旅館	新型コロナウイルス感染の第7波で感染が急拡大し、陽性者数が過去最高を更新する等により相次いだ夏のイベント等の中止や、野外イベントの県外移転などの影響から、行動制限がなかったとは言え、夏休みやお盆休みを利用した観光客・宿泊客は期待した程の大きな回復は見られていない。しかしながら、「全国旅行支援」が先送りされたものの、「県民割」の期間延長等により、観光客・ビジネス客ともに比較的回復基調を維持していると言える。エネルギー価格、食材、燃料油等の資材の高騰や円高・物価高によるコスト増が引き続き懸念材料となっている。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年8月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)		組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	建設業	総合	土木工事は中規模業者の工事量が少ない。各社危機感が強く、受注競争が続いている。建築工事はほとんどない。かなり厳しい状況である。
		電気工事	これからの材料の仕入値がまた値上がりした場合、収益の悪化が進む可能性がある。
		県北地区管工事	9月からの一部材料値上げに対し、価格転嫁が難しい。
	運輸業	軽貨物運送	当月の組合員数は109名、車輛台数は140台で前月と比較して3名と3台の減少であった。また、運送売上高については、前年同月比123.6%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は6,904名、車輛台数8,185台で前月と比較して29名減少、36台減少であった。
		県北地区一般貨物	例年のことではあるが、主要顧客の夏季休暇によりトラックの稼働率が低下し、売上高も例年同様減少している。燃料価格は高値安定しており、収益は厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパンの回数増
	納豆	これまで要望してきた雇用調整助成金の特例措置の継続、更に業況特例等の条件の廃止もしくは緩和は、今月の操業率向上を考慮すれば、その重要性は低下したものの、今後の感染状況と経済活動の先行きが不透明である以上、やはり継続して要望したい。また、同じくこれまでの飲食店などに対する時短要請に起因して間接的に土産品業界に生じた社会的に忘れられてきた不利益に対する補償としての格別の手厚い支援金を引き続き要請したい。また、振興策としての県民割やGOTOトラベルの様な制度は、感染状況との兼ね合いがあるだろうが、引き続き積極的な取り組みを期待する。これらの措置を感染状況による業況変化のスタビライザーとして、雇用調整助成金や支援金などと複合的に運用されることを期待する。また、原材料価格高騰の緩和策も期待されるところである。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。
	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・燃料油価格激変緩和策の継続 ・新型コロナウイルス対策
建設業	総合	本年度の予定工事の迅速な発注をお願いしたい。また、建築資材の値上がりが続いているので、早急な対策をお願いしたい。

月次景況調査 8月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	8月	7月	前月比	8月	7月	前月比	8月	7月	前月比
景 況	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 2.0	▲ 42.3	▲ 46.2	3.9	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 8.3
売 上 高	2.0	▲ 14.0	16.0	▲ 7.7	▲ 3.8	▲ 3.9	12.5	▲ 25.0	37.5
収 益 状 況	▲ 46.0	▲ 44.0	▲ 2.0	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 7.7	▲ 41.7	▲ 45.8	4.1
販 売 価 格	26.0	26.0	0.0	7.7	15.4	▲ 7.7	45.8	37.5	8.3
取 引 条 件	▲ 18.0	▲ 18.0	0.0	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 3.9	▲ 12.5	▲ 16.7	4.2

中小企業月次景況調査(令和4年8月)DI値(前年同月比)

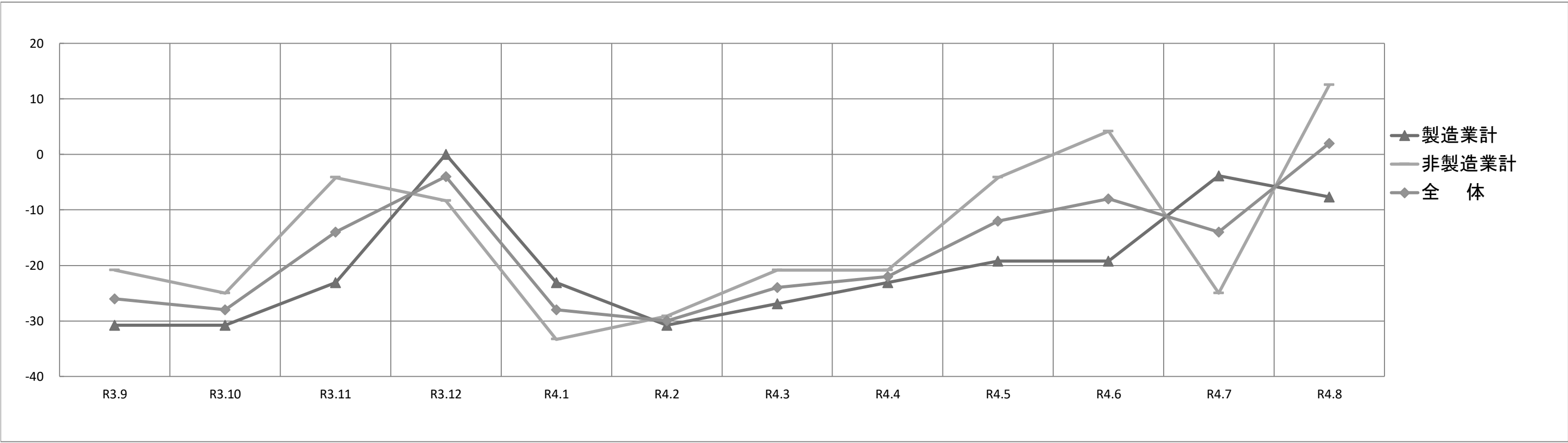
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)													
			増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数						
製造業	食料品	△ 33.3	1	2	3	6	0.0	1	4	1	6	16.7	1	5	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 83.3	0	1	5	6	△ 83.3	0	1	5	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 33.3	1	2	3	6	△ 83.3	0	1	5	6
	繊維工業	0.0	1	1	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	木材・木製品	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	化学・ゴム	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5	40.0	2	3	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	66.7	2	1	0	3	△ 33.3	1	0	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	製造業計	△ 7.7	7	10	9	26	3.8	4	19	3	26	7.7	4	20	2	26	△ 23.1	0	20	6	26	△ 50.0	2	9	15	26	△ 42.3	0	15	11	26	△ 11.5	4	15	7	26	△ 3.8	2	21	3	26	△ 42.3	1	13	12	26
非製造業	卸 売 業	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	66.7	2	1	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3					0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小 売 業 (商店街含む)	8.3	5	3	4	12	0.0	1	10	1	12	33.3	4	8	0	12	△ 16.7	0	10	2	12	△ 33.3	0	8	4	12	△ 25.0	0	9	3	12					△ 8.3	0	11	1	12	△ 16.7	1	8	3	12	
	サービス業	0.0	1	0	1	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0					0	1	1	2	0.0	1	0	1	2		
	建 設 業	20.0	1	4	0	5					60.0	3	2	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 60.0	0	2	3	5	0.0	0	5	0	5	20.0					1	4	0	5	△ 60.0	0	2	3	5		
	運 輸 業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0					0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	非製造業計	12.5	9	9	6	24					0.0	2	11	2	15	45.8	11	13	0	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 41.7	1	12	11	24	△ 16.7					0	20	4	24	△ 8.3	1	20	3	24	△ 33.3	2
全 体		2.0	16	19	15	50	2.4	6	30	5	41	26.0	15	33	2	50	△ 18.0	0	41	9	50	△ 46.0	3	21	26	50	△ 30.0	0	35	15	50	△ 11.5	4	15	7	26	△ 6.0	3	41	6	50	△ 38.0	3	25	22	50

D I 値推移表（R3. 9月 ～ R4. 8月期）

《売上高の推移》

前年同月比	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8
食料品製造業	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3
製造業（食料品製造業以外	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	0.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 3.8	▲ 7.7
卸売業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	33.3	0.0	0.0	▲ 66.7	0.0
小売業（商店街含む）	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0	0.0	▲ 16.7	8.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	20.0	40.0	40.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 40.0	20.0	0.0	▲ 20.0	20.0
運輸業	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0
非製造業計	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 4.2	4.2	▲ 25.0	12.5
全体	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 24.0	▲ 22.0	▲ 12.0	▲ 8.0	▲ 14.0	2.0

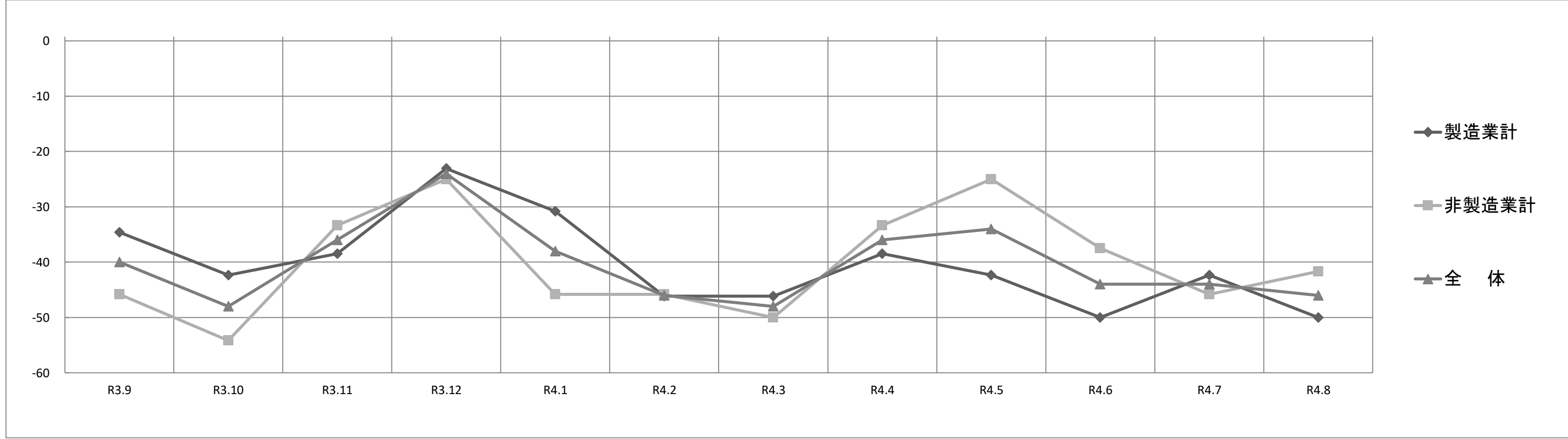
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3
製造業（食料品製造業以外	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 35.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 46.2	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 50.0
卸売業	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業（商店街含む）	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0	0.0
建設業	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 60.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 45.8	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 41.7
全体	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 24.0	▲ 38.0	▲ 46.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 44.0	▲ 46.0

《収益推移グラフ》

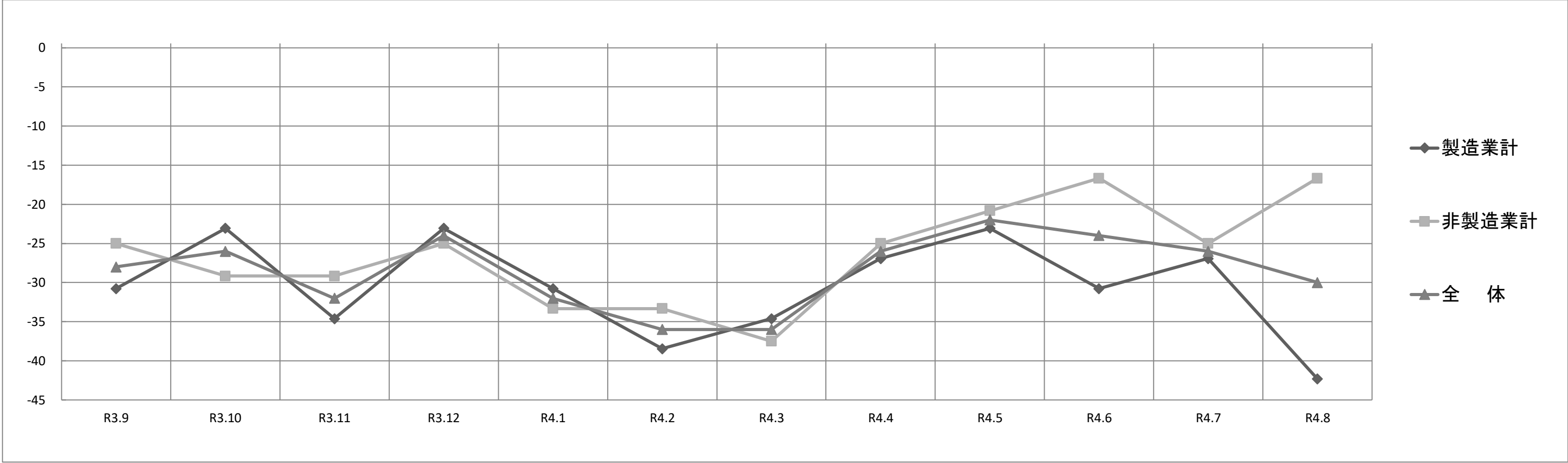


D I 値推移表（R3. 9月 ～ R4. 8月期）

《資金繰りの推移》

前年同月比	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8
食料品製造業	▲ 83. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 66. 7	▲ 83. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 83. 3
製造業（食料品製造業以外	▲ 15. 0	▲ 10. 0	▲ 25. 0	▲ 15. 0	▲ 25. 0	▲ 30. 0	▲ 20. 0	▲ 25. 0	▲ 20. 0	▲ 25. 0	▲ 20. 0	▲ 30. 0
製造業計	▲ 30. 8	▲ 23. 1	▲ 34. 6	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 38. 5	▲ 34. 6	▲ 26. 9	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 26. 9	▲ 42. 3
卸売業	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
小売業（商店街含む）	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 50. 0	▲ 41. 7	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 41. 7	▲ 25. 0
サービス業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
建設業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
運輸業	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0
非製造業計	▲ 25. 0	▲ 29. 2	▲ 29. 2	▲ 25. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 37. 5	▲ 25. 0	▲ 20. 8	▲ 16. 7	▲ 25. 0	▲ 16. 7
全体	▲ 28. 0	▲ 26. 0	▲ 32. 0	▲ 24. 0	▲ 32. 0	▲ 36. 0	▲ 36. 0	▲ 26. 0	▲ 22. 0	▲ 24. 0	▲ 26. 0	▲ 30. 0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8
食料品製造業	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 33. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 33. 3	▲ 50. 0	▲ 66. 7	▲ 83. 3
製造業（食料品製造業以外	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 20. 0	▲ 5. 0	▲ 25. 0	▲ 45. 0	▲ 40. 0	▲ 30. 0	▲ 40. 0	▲ 35. 0	▲ 40. 0	▲ 30. 0
製造業計	▲ 30. 8	▲ 30. 8	▲ 34. 6	▲ 11. 5	▲ 38. 5	▲ 53. 8	▲ 50. 0	▲ 42. 3	▲ 38. 5	▲ 38. 5	▲ 46. 2	▲ 42. 3
卸売業	▲ 100. 0	▲ 66. 7	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	0. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7
小売業（商店街含む）	▲ 58. 3	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 16. 7	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 41. 7	▲ 33. 3	▲ 8. 3	▲ 8. 3	▲ 8. 3	▲ 16. 7
サービス業	▲ 50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	50. 0	0. 0	0. 0	0. 0
建設業	20. 0	20. 0	20. 0	20. 0	0. 0	0. 0	▲ 40. 0	▲ 60. 0	▲ 40. 0	▲ 40. 0	▲ 20. 0	▲ 60. 0
運輸業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0	▲ 50. 0
非製造業計	▲ 45. 8	▲ 29. 2	▲ 25. 0	▲ 16. 7	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 45. 8	▲ 33. 3	▲ 16. 7	▲ 20. 8	▲ 25. 0	▲ 33. 3
全体	▲ 38. 0	▲ 30. 0	▲ 30. 0	▲ 14. 0	▲ 40. 0	▲ 48. 0	▲ 48. 0	▲ 38. 0	▲ 28. 0	▲ 30. 0	▲ 36. 0	▲ 38. 0

《景況推移グラフ》

